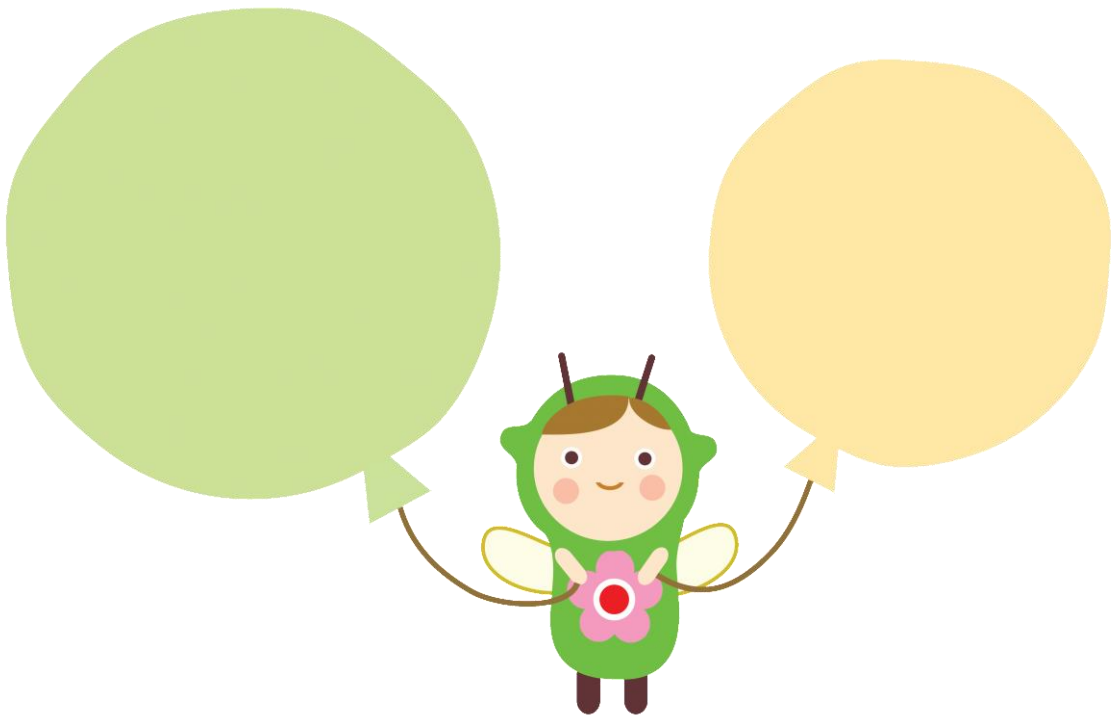


佐江戸加賀原地区 地域福祉活動計画



平成25年2月

佐江戸加賀原地区社会福祉協議会

あいさつ

1. 計画策定にあたって P.3
 - 1) 「地域福祉活動計画」とは
 - 2) 「地区社協版活動計画」を策定する意義

2. 佐江戸加賀原地区とは P.4
 - 1) 地区データ
 - 2) 佐江戸加賀原地区社会福祉協議会の活動
 - 3) モデル地区指定の経緯

3. 佐江戸加賀原地区 地域福祉活動計画 P.6
 - 1) 策定までの流れ
 - 2) 佐江戸加賀原地区社協の3つの課題
 - ①地域の関わりあい
 - ②困りごと
 - ③社協の認知度
 - 3) 佐江戸加賀原地区社協の3つの取組
 - ①広報力の強化
 - ②事業の拡充・見直し・新たな事業の立案
 - ③資金・人材の確保
 - 4) 佐江戸加賀原地区 地域福祉活動計画の評価

4. 佐江戸加賀原地区 地域福祉活動計画 P.8

5. 計画策定までの軌跡・資料編 P.10
 - 1) 会議参加メンバー
 - 2) 会議開催日
 - 3) アンケート調査
 - ・ 目的、対象、実施時期、回収割合、協力団体
 - ・ アンケート結果
 - 4) 第2期都筑区地域福祉保健計画・地区別計画<佐江戸加賀原地区>

毎月のように顔を合わせ検討を重ねてきた結果の集大成といえる「佐江戸加賀原地区地域福祉活動計画」がようやくできあがりしました。全世帯アンケート調査の結果をもとに、地域が求めていることはどんなことなのか、どういう取組が必要であるかについて、常にあつく活発な意見交換が繰り返されてきました。着手することが決まると即実行するといった、実に行動力がある、この佐江戸加賀原地区社協メンバー達を誇りに思っております。

また、初めて見る人、知る人にも、われわれがどこを目指しているかわかりやすい計画づくりにも努めてまいりました。

「計画」はもちろん、策定して終わりではなく、実施していくにあたり、誰もが住み続けたいと思える地区でありつづけていくよう、随時、見直しをはかりながら活動をしつづけていかなばならないと考えております。

この計画をつくるにあたりご協力をいただいた川原先生をはじめ、多くの方々に心より感謝申し上げます。また、計画遂行にあたっては、自治会町内会をはじめ、地域の皆様と一緒に進めていきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 25 年1月

佐江戸加賀原地区社会福祉協議会

会長 岩嶋伸幸



佐江戸加賀原地区の、地区社会福祉協議会による、地域の人々全てのための計画が出来上がりました。約1年半にわたり、ほぼ毎月開催された会議、地域へのアンケート実施、「ちょボラ」立ち上げ、そして「計画」についての検討と、私も地域の皆さんとともに歩んでまいりました。毎回会議に参加される皆さんの熱気、エネルギー、そして何よりも地域に対する「思い」に圧倒されました。

いわゆる行政や公的機関などがつくる「計画」は、何を、どのように、いつまでに、を明確に設定します。今回この計画では「いつまでに」を明確にしていません。これは計画を実施していくにあたり、スケジュールに縛られることなく、柔軟に検討し進めていきたいという思いがあったからです。そこで考えられたのは、四半期毎（予定）の計画推進委員会です。「計画」は策定のプロセスにもかなりのエネルギーが必要ですが、その後の計画にそった活動の実施が重要です。そしてその活動を適宜検証・評価し、計画の修正・見直しを重ねることで、次の新たな計画策定につながっていくと考えます。

自立した地区活動は、①自分達で始める、②自分達で動く、③自分達で発信する、という点が重要だと考えますが、また、区社会福祉協議会、ケアプラザ、行政のサポートも重要です。今後もいろいろな事業を行う中から、あたらしい活動メンバーが生まれてくると思います。

多くの人々の連携の中、佐江戸加賀原地区社会福祉協議会の皆さんの「熱い思い」をのせた計画が、着実に進んでいくことを確信しております。

平成 25 年1月

田園調布学園大学 講師

佐江戸加賀原地区社会福祉協議会 活動計画策定アドバイザー 川原 美智子





1. 計画策定にあたって

1) 「地域福祉活動計画」とは

地域の一人ひとりが、地域社会を担う一員として、自分の地域について考え、みんなで住みよい地域づくりを行っていくための、自発的、自主的な取組を推進する行動計画です。

地域の課題を整理し、課題の解決に向けての目標を掲げ、目標を達成するための地域ぐるみの取組を検討し、実施するものです。計画の実践により地域課題を解決し、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまち」を目指します。

この「活動計画」は、地域の福祉保健を推進に向けて区民、事業者、行政が協働で取り組む「地域福祉保健計画」と連携した取組になっています。

2) 「地区社協版活動計画」を策定する意義

都筑区には、地区連合エリアに準じて、14 の地区社協があり、各地域では高齢者や障がい者、子どもや子育て中の方などを対象に、様々な福祉課題への取組がなされています。

都筑区の地域福祉の推進は、区を構成する各地区の活動の充実があつてこそ成り立ちます。そこで、都筑区社会福祉協議会がモデル地区社協を指定して地域の福祉課題への取組を推進していくことになったのが、「地区社協版活動計画」です。

「活動計画」を地域に最も身近な地区社協が検討することで、地域のより細かな福祉課題の発見や人材の発掘、ネットワークづくりが築かれ、「新たな気づき」「新たなつながり」「新たな試み」による地域福祉の推進を目指します。

佐江戸加賀原地区では、平成 22 年度に加賀原地域ケアプラザで開催した地域懇談会での意見をもとに定めた「第 2 期地域福祉保健計画・地区別計画」から、より福祉的な視点での取組が必要な、「目標 4・高齢者、障害者、子どもなどを支援する活動や、ちょっとしたボランティア活動など、地域の支え合いの仕組みづくりを進めよう！」（資料編参照）を、地区社会福祉協議会で推進しています。





2. 佐江戸加賀原地区とは

1) 地区データ

★町別・男女別・年齢別 人口数(H24.9) 佐江戸・加賀原地区

町名	性別	～5	6～17	18～64	65～74	75～	合計
加賀原一丁目	男	95 (4.9%)	267 (13.7%)	1,334 (68.6%)	186 (9.6%)	64 (3.3%)	1,946
	女	93 (4.7%)	260 (13.2%)	1,370 (69.4%)	156 (7.9%)	96 (4.9%)	1,975
	合計	188 (4.8%)	527 (13.4%)	2,704 (69.0%)	342 (8.7%)	160 (4.1%)	3,921
加賀原二丁目	男	117 (16.0%)	97 (13.3%)	474 (64.8%)	29 (4.0%)	14 (1.9%)	731
	女	104 (14.3%)	110 (15.2%)	451 (62.2%)	36 (5.0%)	24 (3.3%)	725
	合計	221 (15.2%)	207 (14.2%)	925 (63.5%)	65 (4.5%)	38 (2.6%)	1,456
佐江戸町	男	221 (8.1%)	257 (9.4%)	1,955 (71.7%)	210 (7.7%)	85 (3.1%)	2,728
	女	242 (9.5%)	266 (10.4%)	1,689 (66.2%)	207 (8.1%)	148 (5.8%)	2,552
	合計	463 (8.8%)	523 (9.9%)	3,644 (69.0%)	417 (7.9%)	233 (4.4%)	5,280
地区合計	性別	～5	6～17	18～64	65～74	75～	合計
	男	433 (8.0%)	621 (11.5%)	3,763 (69.6%)	425 (7.9%)	163 (3.0%)	5,405
	女	439 (8.4%)	636 (12.1%)	3,510 (66.8%)	399 (7.6%)	268 (5.1%)	5,252
	合計	872 (8.2%)	1,257 (11.8%)	7,273 (68.2%)	824 (7.7%)	431 (4.0%)	10,657
都筑区合計	性別	～5	6～17	18～64	65～74	75～	合計
	男	7,309 (7.0%)	16,114 (15.5%)	67,988 (65.4%)	7,694 (7.4%)	4,878 (4.7%)	103,983
	女	6,862 (6.7%)	14,967 (14.5%)	65,792 (63.9%)	8,309 (8.1%)	7,085 (6.9%)	103,015
	合計	14,171 (6.8%)	31,081 (15.0%)	133,780 (64.6%)	16,003 (7.7%)	11,963 (5.8%)	206,998

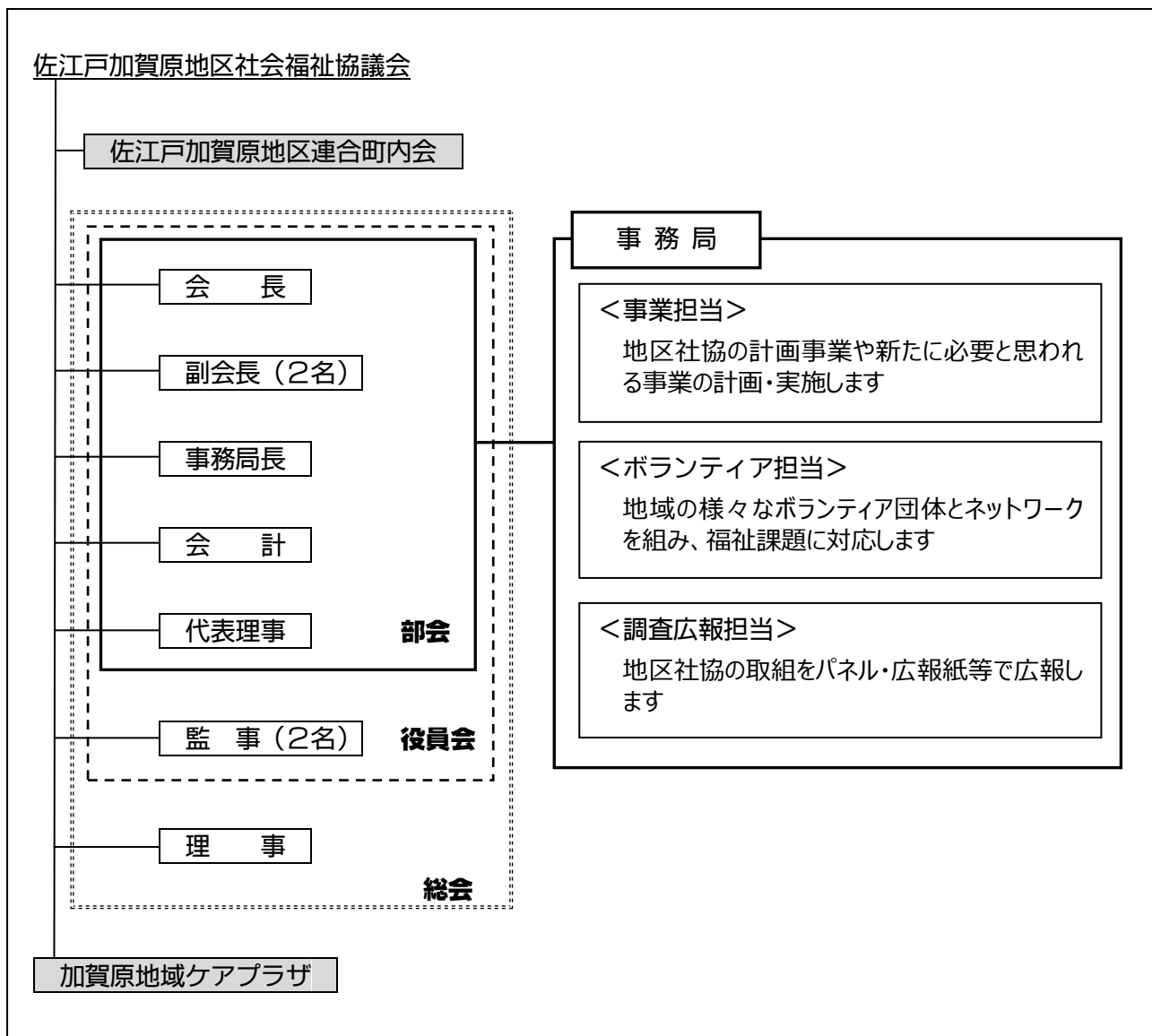
★世帯数(H24.9)

	世帯数	自治会・町内会	加入世帯数
佐江戸町	2,265	佐江戸町	1,184
		ライブタウン中山	154
加賀原一丁目	1,392	加賀原一丁目	300
		シンフォニックヒルズ	484
		加賀原夕月野	134
		ハーモニーヒルズやすらぎの街	86
加賀原二丁目	501	加賀原二丁目	506

※一軒一世帯とは限らず、加入世帯数は世帯数とは異なる

2) 佐江戸加賀原地区社会福祉協議会の活動

■ 佐江戸加賀原地区社協 組織図



■ 主な活動／対象者

佐江戸会館ふれあいサロン（毎月第3月曜日）／乳幼児から高齢者まで誰でもOK
 三世代交流事業（8月「流しそうめん」、12月「お餅つき」）

／乳幼児から高齢者まで誰でもOK

福祉農園への参加（10月）／乳幼児から高齢者まで誰でもOK

チャリティグラウンドゴルフ大会（11月）／小学生以上

あじさい会（ひとり暮らし高齢者昼食会）

赤い羽根共同募金活動（10～12月）

年末たすけあい募金活動（12月）

賛助会員の募集（通年）

広報紙（地区社協だより）の発行

ひまわり会（障がい児者交流事業・年2回）

ちょこっとボランティア／㊦



3) モデル地区指定の経緯

平成 23 年度より第 2 期都筑区地域福祉活動計画がはじまりました。その中の取組として、地区別計画を推進するために“地区社協では何ができるか”を考える「地区社協版活動計画」を策定することとなり、地域の課題を分析し、解決策の検討＝行動計画を策定していくことにしました。初年度の平成 23 年度は、モデル地区として 2 地区からスタートし、各地区社協での策定を進めることになりました。

当時、佐江戸加賀原地区では、三世代交流事業など様々な福祉活動に取り組んできていましたが、より一層地域の支え合いの仕組みづくりを進めたいとの思いから、地区社協の組織替えをし、新体制になったことを機に、「ちょこっとボランティア事業」立ち上げという新たな取組を考案中でした。このような新たな一步を踏み出そうという佐江戸加賀原地区社協の姿勢が、モデル地区としてふさわしいと判断され、モデル地区の指定を受けるにいたりしました。



3. 活動計画



1) 策定までの流れ

佐江戸加賀原では、「ちょこっとボランティア」という新たな取組を開始するにあたり、佐江戸加賀原で生活する住民の困りごとや要望を把握し、そのニーズに合った活動をしていこうということになり、各自治会町内会の協力を得て、全世帯アンケート調査を実施しました。また、アンケートのなかで、併せて地区社協の意識調査も行いました。

そこから見てきた課題は、日頃の生活に関わることから災害時や緊急時のこと、地区社協の意義を問うものなど、幅広い内容でした。福祉課題以外のニーズについては、各々関係部署に伝えていくことにします。

*アンケート結果は資料編参照。

2) 3つの課題

アンケート結果から見えてきた課題のなかから、福祉に関わるものを抽出し、テーマごとに分類したところ、3つの課題が明らかになってきました。

まず、地域に集う機会や参加できる場がない、またはあるというのに知られていない、もしくは気軽に参加できる状況になっていないという実態がわかりました。

2つ目に、地域には困りごとや不安があると思っている人がいること、そして、その反面、求められないと手を差しのべにくい声があること、地域の相談窓口が知られていない、または知っていてもその垣根が高く相談出来ていないこともわかりました。

そして、3つ目に、そもそも「地区社協」が知られていない、各種事業の目的や必要性が理解されていないという現状がわかり、以上を3つの課題として捉えることとしました。



3) 3つの取組

これら3つの課題をもとに、目標（理想の状況）を定め、それらを達成するための解決策を検討することになりました。誰が？いつ？どこで？どのように？と具体的に検討を行い、次の3つの取組を進めていくことになりました。

1つ目の取組として、地域から求められていることを聴き取って、必要な情報を発信する仕組みをつくりまします。2つ目として、それら地域のニーズに即した活動を行っていきます。地域住民から求められていることにきちんと対応し、事業担当を中心に活動の拡充、見直し、新たな事業の立案に努めていきます。そして、3つ目として、地域福祉のために福祉活動の大切さを理解してもらい、そのための人材や資金の確保に努めます。

4) 計画の進め方・評価

計画は、地区社協の年間計画に盛り込みながら具体的な行動を進めていきます。今回の計画を策定するにあたり、定期的に会合を持つことで、各担当だけではなく地区社協全体で地域の課題や地区社協の方向性について検討し共有しあえることができるようになりました。「地区社協全体で評価しあえ次の事業を進めること」を継続するために、今後「佐江戸加賀原地域福祉活動計画推進委員会」を四半期ごと（予定）に開催し、その場で活動計画の進捗管理・評価・見直しを行います。

4. 佐江戸加賀原地区 地域福祉活動計画



3つの課題

① 地域の関わり合い

個別の課題 …… 地域にどのようなイベントがあるか知られていない！
地域活動に気軽に参加できる状況になっていない！
交流できるイベントがない！



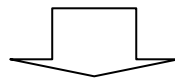
② 困りごと

個別の課題 …… 困りごとや不安があると思っている人がいる！
その反面求められないと手をさしのべにくい！
相談窓口があることが知られていない！
相談窓口の垣根が高い！



③ 地区社協の認知度

個別の課題 …… 「地区社協」が知られていない！
各種事業の目的・必要性が理解されていない！



3つの取組

1. 地域から求められていることを聴き取って、必要な情報を発信する仕組みをつくりま

目標 …… 地域住民が、地域のイベントを知っている！
地域住民が、困りごとの相談窓口を知っている！
地域住民が、地区社協を知っている！

【具体的な取組】



- ★「地区社協だより」を定期的に発行し、地域イベントの紹介・地域の相談窓口や「ちょこっとボランティア事業」のPRを行います。
- ★地域イベントカレンダー・チラシ・ポスター・パネル・HP等を積極的に活用していきます。
- ★「ちょこっとボランティア事業」をPR、そして「ちょこっとボランティア事業」を通して地区社協をPRしていきます。

2. 地域のニーズに即した活動を行っていきます。
地域住民から求められていることにきちんと対応し、事業担当を中心に活動の拡充、見直し、新たな事業の立案に努めていきます。

目標 …… 地域のイベントに、誰もが気軽に参加できている！
「ちょこっとボランティア」が活用されている！

【具体的な取組】

- ★三世代交流事業を「参加」から「交流」へ目的を変換し、プログラムに交流イベントを組み入れます。
- ★子どもと一緒に企画または参加・協力の出来る地域イベントを企画します。
- ★イベント時に相談コーナーを設置します。
- ★「ちょこっとボランティア」が地域住民の困りごとをコーディネートし解決していきます。
- ★事業実施後はアンケート等を行い、きちんと地域の声を反映させていきます。



3. 地域福祉の推進のために、福祉活動の大切さを理解してもらい、そのための人材や資金の確保に努めます。

目標 …… お互いに手をさしのべやすくなっている(支え合える)！
地域住民が、福祉活動には人材や資金が必要であることを理解・協力している！

【具体的な取組】

- ★地区社協の目的や事業をPRします。
- ★担い手の必要性をPRし、担い手を発掘・育成を行います。
- ★事業開催時に福祉活動の資金の必要性をPRし、賛助会員加入PR、協賛金を募集します。



5. 計画策定までの軌跡・資料編



1) 会議参加メンバー（敬称略）

NO	氏名	所属	備考
1	岩嶋 伸幸	地区社協 会長 地区連合町内会自治会長	加賀原二丁目自治会長 民生委員児童委員（加賀原二丁目）
2	安部 喜平	地区社協 副会長	佐江戸町内会会長 ちょこっとボランティアコーディネーター
3	小川 邦夫	地区社協 事務局長	民生委員児童委員（佐江戸町 上地区）
4	横山 謙一	地区社協 会計	民生委員児童委員（加賀原一丁目）
5	高野 美律夫	地区社協 代表理事	ボランティアグループ ひまわり会代表
6	佐藤 栄子	地区社協 代表理事 ボランティア担当 長	地区民児協 会長（シフォニック） ちょこっとボランティアコーディネーター
7	関子 俊子	地区社協 代表理事	ボランティアかがはら・ ネットカフェかがはら代表
8	志田 藤夫	地区社協 理事 ボランティア担当	地区民児協 副会長 （佐江戸町 石橋地区）
9	福田 昇	地区社協 理事 事業担当 長	民生委員児童委員（佐江戸町 入地区）
10	並木 光子	地区社協 理事 事業担当	民生委員児童委員（佐江戸町 上地区）
11	穴戸 幸子	調査広報担当 長	ライブタウン隣人の会 赤ちゃん訪問員
12	齋藤 聡子	調査広報担当	ちょこっとボランティア副会長
13	栗原 礼子	調査広報担当	ちょこっとボランティア会計
14	北村 雅子	調査広報担当	ちょこっとボランティア活動会員 赤ちゃん訪問員

アドバイザー

	川原 美智子	田園調布学園大学 人間福祉学部 非常勤講師	
--	--------	--------------------------	--

地域ケアプラザ

	堀 孝子	加賀原地域ケアプラザ所長	
	川岸 真理子	加賀原地域ケアプラザ 地域活動交流コーディネーター	

区社協

	山下 真美	都筑区社協事務局次長	～H24. 3
	森木 淳	都筑区社協事務局次長	H24. 4～
	原田 麻里	都筑区社協職員	佐江戸加賀原地区担当
	三木 涉	都筑区社協職員	～H24. 3
	北原 純子	都筑区社協職員	H24. 4～

2) 会議開催状況

回数	日付	参加人数	内容
1	H23. 6. 6	13名	1年間のスケジュール・会議参加メンバーの確認
2	H23. 7. 9	11名	アンケート内容の検討
3	H23. 8. 4	14名	アンケート集計、ニーズ分析・把握方法の検討
4	H23. 10. 7	16名	アンケート結果の分析、結果の見せ方の検討、 「ちょこっとボランティア」立ち上げ準備
5	H23. 11. 17	16名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
6	H23. 12. 1	15名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
7	H23. 12. 27	14名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
8	H24. 1. 26	15名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
9	H24. 2. 27	15名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
10	H24. 3. 28	12名	アンケート結果の分析、「ちょボラ」立ち上げ準備
11	H24. 4. 26	11名	「ちょボラ」進捗確認、活動計画「行動計画の検討」
12	H24. 5. 31	14名	「ちょボラ」進捗確認、活動計画「行動計画の検討」
13	H24. 6. 26	16名	「ちょボラ」進捗確認、活動計画「行動計画の検討」
14	H24. 7. 31	18名	「ちょボラ」進捗確認、活動計画「行動計画の検討」
15	H24. 9. 4	15名	活動計画表（案）について
16	H24. 10. 9	17名	活動計画表（案）について
17	H24. 11. 6	16名	活動計画表（案）・計画の周知方法について

地区社会福祉協議会とは...

住民参加による地域福祉活動を通じて、地域のふれあいを高めるとともに、住民ひとりひとりの福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、その解決に向けた取り組みを行うことにより、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを、地域住民自らが自主的に実践するために結成されている組織です。